

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	【上位目標】官民連携の促進による防災、災害対応能力の強化 国内の災害対応・防災のため、官・民のパートナーがセクターを越えて連携するメカニズムとして2016年3月に設立されたA-PAD フィリピンナショナルプラットフォーム（以下、「A-PAD フィリピン」と略）について、中央・地方それぞれのレベルにおいて、その機能および能力が強化され、本事業期間中に発生した国内の災害時の対応において有効な連携が図られ、A-PAD フィリピンの災害対応・防災への貢献が確認できた。 1. 地方プラットフォーム（RP）の設立によって、地域の状況に応じたマルチセクター連携による災害対応が可能になる。: A-PAD フィリピンは全国調整委員会（NCC）において合意された各地方プラットフォーム（RP）の基本的条件を満たすRPを計6カ所に設立した。2018年7月13日にビコールRP（ナガ市）、10月12日に中部ビサヤRP（セブ市）、11月16日に東部ビサヤRP（オルモック市）および同20日にソクサージェン（ジェネラル・サントス市）、2019年1月24日にダバオRP、2月21日にイロコスRP（ビガン市）がそれぞれ設立され、各事業地においてマルチセクター連携による災害対応体制が整った。 2. A-PAD フィリピン、RPの緊急対応能力が向上する。: 2019年1月～4月にルソン、ビサヤ、ミンダナオにおいて緊急対応研修を実施し、各セクター（市民社会、企業、政府・地方自治体）によって構成される各RPのメンバー137名が参加した。また、6RP全てにおいて緊急対応計画が策定され、RPレベルで発災時に迅速に対応するための体制が構築された。 3. 零細中小企業（MSMEs）およびコミュニティの災害レジリエンスが向上する。: 2019年1月～4月にかけて、各RPメンバーのMSMEsを対象とした事業継続計画（BCP）の策定方法についての研修を計5回実施し、合計91事業体から計146名が参加し、各地域における中小企業の災害レジリエンス向上に貢献した。 上記の成果は、弊団体が目指す基本方針「災害が起こる前にマルチセクター連携による防災対応体制を整え、災害時に素早く効果的に災害対応が行われる」に適していると大きく評価する。
(2) 事業内容	(ア) <u>全国および各地方における防災・災害対応ネットワークの機能強化（A-PAD フィリピンの強化とRP設立）</u> (i) 地方パートナー会議の開催 各地方において、RPのパートナーとの会合を下記のとおり開催した。 (ルソン) ビコール: 16名(5/3-4), 18名(6/9), 17名(9/21), 11名(1/3): <u>62名</u> イロコス: 18名×1回: <u>18名</u> (ビサヤ) 中部ビサヤ: 9名(3/26), 13名(4/26), 11名(5/21), 22名(6/22), 16名(8/6), 6名(8/31), 15名(9/18), 58名(10/11): <u>150名</u> 東部ビサヤ: 7名(4/20), 7名(5/5), 18名(10/3), 18名(10/11), 7名(10/26), 10名(1/4): <u>137名</u> (ミンダナオ) ダバオ: 10名(8/8), 13名(9/25), 14名(12/6): <u>37名</u>

	ソクサージェン：26名(9/25)、7名(10/16)、15名(11/9)：48名 出席者合計：のべ390名 この成果として、体制や規則を定めたRP運営ガイドラインとしての付託条項(Terms of Reference)(添付7)および、緊急時の行動を定めた緊急準備対応計画(Emergency Preparedness and Response Plan：EPRP)(添付17)が6つのRPにおいて制定、採択された。 (ii) 国際シンポジウムの開催 2019年2月28日にマニラのヘリテージ・ホテルにおいて、「Strengthening Community Resilience and Humanitarian Response Through Localized DRRM Platform」(地域に根ざした災害リスク軽減・管理のためのプラットフォームによる人道支援とコミュニティの強靱性の強化)をテーマとした国際シンポジウム(添付8)が開催され、フィリピン国内の各RP関係者およびA-PADの加盟各国のメンバー計80名が出席した。同シンポジウムでは、A-PADフィリピン事務局および共同幹事団体のCDRC¹、PDRF²および、各RPの代表者によって構成されるNCCメンバーによるA-PADフィリピンへの宣誓書の署名式(添付9)が行われた。 (iii) RPの設立 下記の通り、計6カ所の事業地にRPが設立された(添付10)。各設立式に先立ち、日本大使館から祝辞を頂戴し、さらにダバオRP設立式には、在ダバオ総領事館の三輪総領事にご出席を頂いた。 (ルソン) ビコールRP(ナガ市)：2018年7月13日：80名 (ビサヤ) 中部ビサヤRP(セブ市)：10月12日：65名 東部ビサヤRP(オルモック市)：11月16日：79名 (ミンダナオ) ソクサージェンRP(ジェネラル・サントス市)：11月20日：55名 ダバオRP(ダバオ市)：2019年1月24日：75名 (ルソン) イロコスRP(ビガン市)：2月21日：43名 出席者合計：のべ397名 (iv) NCC会議の開催 下記の通り、計4回のNCC会議が開催された(添付11)。 1. 2018年6月13日～14日(クラーク)：25名 2. 2018年10月17日(マニラ)：49名 3. 2019年2月27日(マニラ)：20名 4. 2019年3月29日(セブ)：23名 出席者合計：のべ117名 計画では計5回の予定であったが、台風シーズンである9月～1月の間は、関係者間のスケジュール調整が困難であったため、10月の開催のみとなり、計4回の開催となった。これを補完するため、CDRC、PDRFの共同幹事団体は、毎月定例の連絡会合を開き、各RPの能力向上や支援策について協議を行った。また、2019年3月29日のNCCにおいては、A-PADフィリピンの議定書案(添付12)がRPメンバーを含む全会一致で採択された。 (v) ネットワーク拡大のための活動(アウトリーチ) ルソン、ビサヤ、ミンダナオの各地方において、新たなパートナー開拓のための活動を行い、緊急対応に係る覚書(Memorandum of Understanding：MOU)を計56団体と締結した(添付13)。3年次の開始時のパートナー数は54団体であったことから、本事業期間中にパートナーの数は倍増したと言える。なお、ビコール地方における新規
--	---

加盟数は3団体であったが、それぞれ少なくとも100の事業体が加盟する商工会議所であったことから、実質的な加盟団体数はむしろ飛躍的に増加しており、同地域でのA-PADの影響力は高まったと言える。

(ルソン) パートナー数: 22 (当年度開始時) → **39 団体**

(イロコス 14、ビコール 3)

(ビサヤ) パートナー数: 21 (当年度開始時) → **38 団体**

(中部ビサヤ 8、東部ビサヤ 9)

(ミンダナオ) パートナー数: 11 (当年度開始時) → **33 団体**

(ダバオ 12、ソクサージェン 10)

さらに、A-PAD フィリピン事務局およびCDRC、PDRFの代表は、2019年2月19日にNDRRMCを訪問し(添付15)、同月28日の国際シンポジウムへのJalad次官の出席が実現した。

(vi) 事業終了後の活動継続計画の策定

上記(iv)のNCC会議において、A-PAD フィリピンの活動継続計画(添付14)が協議され、全国レベルでの事業計画のためのロードマップが作成された。なお、RP毎の自立までの具体的な活動計画やコミットメント、モニタリング・評価、フィードバックの体制等についての活動継続計画については、緊急対応などの影響により一部のRPの設立スケジュールが大幅に遅れた影響もあり、引き続き議論を行っている段階である。

(イ) A-PAD および RP の緊急人道支援能力の向上

(i) 緊急対応研修

ルソン、ビサヤ、ミンダナオの各地方において、計4回の緊急対応研修(添付16)を行った。予定では各地方1回の計3回であったが、ルソンでの開催を熱帯低気圧Usmanへの実際の緊急対応によるOJT形式とインシデント・コマンド・システム(ICS)の2回に分けたため、計4回の実施となった。

(ルソン) OJT: 2019年1月3日～14日 20名

ICS: 2019年4月2日 35名

(ビサヤ) 2019年3月27～29日 40名

(ミンダナオ) 2019年3月27～29日 42名

出席者合計: 137名

(ii) 緊急対策・対応計画策定ワークショップ

6カ所のRPにおいて、緊急対策・対応計画策定のためのワークショップが開催され、A-PAD フィリピン事務局および各RPの緊急対策・対応計画(添付17)が策定された。

(ルソン) イロコス RP: 2019年2月7日 21名

ビコール RP: 2018年12月18日 17名

(ビサヤ) 中部ビサヤ RP: 2019年2月8日 23名

東部ビサヤ RP: 2019年1月30日 34名

(ミンダナオ) ダバオ RP: 2019年2月23日 17名

ソクサージェン RP: 2019年2月22日 23名

出席者合計: 135名

(ウ) MSMEs と地域社会の災害レジリエンスを高める

(i) BCP トレーナー育成研修

申請時には、BCP トレーニング修了者の中から今後中心的な役割を担っていく候補者を選出し、BCP トレーナー育成研修を実施することを想定していた。しかし、BCP トレーニングの実施後に、参加した RP パートナーの MSMEs からトレーナー育成研修の候補者となり得るレベ

	ルの理解度を示す者が見られず、<u>指導者研修を行うことは不可能であることが判明した</u>。他方で、新しく設立されたイロコス地方（ビガン市）およびソクサージェン地方（コロナダル市）の MSMEs から BCP 研修を行って欲しいという要望があったため、BCP トレーナー育成研修の代替として、上記 2 市において追加の BCP 研修を開催し、幅広い MSMEs に向けた理解度向上と能力強化を図ると共に、今後の BCP トレーナー育成研修の開催に向けて、各 RP との協議の機会を持った。 (ii) BCP トレーニング ルソン、ビサヤ、ミンダナオの各地方において、上記の追加の BCP 研修を含む計 5 回の BCP 研修（添付 18）を行った。 （ルソン）イロコス RP（ビガン市）：2019 年 3 月 27～29 日 35 名 ビコール RP（ナガ市）：2019 年 2 月 11～13 日 19 名 （ビサヤ）東部ビサヤ RP（オルモック市）：2019 年 2 月 15～17 日 25 名 （ミンダナオ）ダバオ RP（ダバオ市）：2019 年 2 月 18～20 日 24 名 ソクサージェン RP（コロナダル市）：2019 年 4 月 4～5 日 43 名 出席者合計：146 名 事業体数：91
(3) 達成された成果	成果 1：RP の設立で地域の状況に応じた災害対応が可能になる。 指標 1. <u>6 つ以上の RP を設立</u>：ルソン島においてビコール RP（ナガ市）およびイロコス RP（ビガン市）、ビサヤ諸島において中部ビサヤ RP（セブ市）および東部ビサヤ RP（オルモック市）、ミンダナオ島においてソクサージェン RP（ジェネラル・サントス市）およびダバオ RP（ダバオ市）において、計 6 つの RP が設立された（添付 10）。これにより、各事業地においてマルチセクター連携による災害対応体制が整備された。 指標 2. <u>RP の効果的運営のためのガイドラインが整備される</u>：各地方におけるパートナー会議および緊急準備対応計画ワークショップの結果、RP 運営ガイドラインとしての付託条項（Terms of Reference）（添付 7）および、緊急時の行動を定めた緊急準備対応計画（Emergency Preparedness and Response Plan：EPRP）（添付 17）が A-PAD フィリピン事務局および 6 つの RP において制定、採択された。 指標 3. <u>NCC が設立され、RP との意思疎通と調整がより円滑に行われるようになる</u>：共同幹事団体、A-PAD フィリピン事務局および RP の代表で構成される NCC が設立され、計 4 回の NCC 会合（添付 11）が開かれ、計画や方針についての協議が行われたことにより、連携関係の強化が図られた。 指標 4. <u>各 RP レベルで 6 団体以上の新しいパートナーシップを結ぶ</u>：ルソンにおいてはイロコス RP で 14 団体、ビコール RP で 3 団体、ビサヤでは中部ビサヤ RP で 8 団体、東部ビサヤ RP で 9 団体、ミンダナオではダバオ RP で 12 団体、ソクサージェン RP で 10 団体の、合計 56 の新規パートナー（添付 13）との間で覚書（MOU）を締結した。3 年次の開始時のパートナー数は 54 団体であったことから、本事業期間中にパートナーの数は倍増した。なお、ビコール RP における新規加盟数は 3 団体であった

	が、それぞれ少なくとも 100 の事業体が加盟する商工会議所であったことから、実質的な加盟団体数はむしろ飛躍的に増加しており、同地域での A-PAD の影響力は高まったと言える。 指標 5. <u>各 RP のメンバーが A-PAD フィリピンの議定書に署名する</u>：2019 年 3 月 29 日に開催された NCC において A-PAD フィリピンの議定書の最終案（添付 12）が採択され、署名手続き中である。 指標 6. <u>A-PAD フィリピンの「活動継続計画」が策定される</u>：2019 年 3 月 29 日の NCC において活動継続計画（添付 14）が承認された。 成果 2：A-PAD フィリピン、RP の緊急対応能力の向上 指標 1. <u>各地域から 90 名以上の参加者が参加し、緊急対応研修が行われる</u>：ルソン、ビサヤ、ミンダナオの各地方における計 4 回の緊急対応研修に計 137 名が参加した。 指標 2. <u>A-PAD フィリピン、各 RP レベルで緊急対応計画が策定される</u>：各 RP において緊急対応計画策定ワークショップが開催され、計 135 名が参加し、各 RP の緊急対策・対応計画（添付 17）が策定された。 成果 3：MSMEs およびコミュニティの災害レジリエンスが向上する。 指標 1. <u>各 RP および A-PAD フィリピンの加盟団体には必ず BCP トレーナーとして指導できるスタッフが複数名配置される</u>：BCP 研修の修了者から、BCP トレーナー育成研修の対象者がみられなかったため、本事業期間中に BCP トレーナー育成研修を実施する代わりに、2 回の BCP トレーニングを追加で実施し、より幅広い MSME に向けた能力強化を図った。 指標 2. <u>各地域での MSMEs のための BCP 研修には合計 90 名以上が参加</u>：ルソン、ビサヤ、ミンダナオの各地方で RP のメンバーのうち 91 の事業体の計 146 名を対象に計 5 回の BCP 研修（添付 18）を実施した。 指標 3. <u>BCP トレーニングに代表者が参加した MSMEs の半分以上は自らの BCP を持つようになる</u>：BCP 研修およびその後のフォローアップを行った結果、参加した 91 の全ての MSMEs が、BCP 策定のための基本的知識を習得し、自らの BCP のロードマップを作成し、BCP 策定に着手した。
(4) 持続発展性	弊団体では、本事業年度に策定された活動継続計画に基づき、共同幹事団体と引き続き連携し、A-PAD フィリピン事務局、RP のメンバーと共に、今後の自立に向けたコミットメントを履行するよう、当面は自己資金によるフォローアップを引き続き行っていく計画である。特に新規に立ち上がったばかりの RP においては、発災時に緊急対応において迅速に連携体制がとれるよう、組織強化や平時からの緊密なコミュニケーションや支援が不可欠であることから、弊団体の現地スタッフによるメンターリング、ファシリテーションを継続する。 活動継続計画の主な内容は下記のとおりである。 1. 地域プラットフォームは、ドナーからの資金調達と A-PAD フィリピンのプラットフォームメンバーによって集められた寄付金によって、災害によって被災した地域を支援するための調整と対応を迅速かつ効果的に行う。